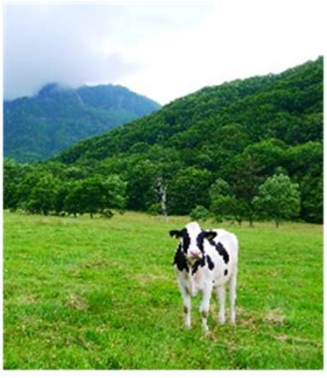
長野市
地域おこし協力隊

長野市の各地域で、実際に住んで働き、
その地域の魅力を発見・実感・発信する。



FEEL NAGANO, BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

地域おこし協力隊とは？

・地域おこし協力隊とは、都市地域から地方に生活の拠点を移した人を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、地域の課題解決や地域おこしの支援などの**地域協力活動を行い**ながら**その地域への定住・定着を図る**制度です。

・協力隊の**任期は概ね1年～3年**で、全国で7,900人を超える協力隊員が活動しています。

長野市はなぜ地域おこし協力隊を導入したの？

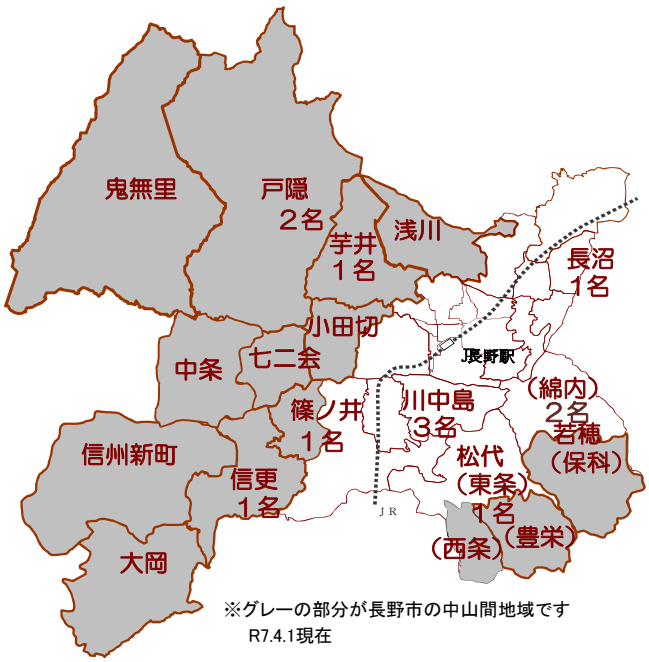
・長野市は、平成の大合併により、**市域の約4分の3が中山間地域となりました。**この中山間地域は、環境の保全や農林畜産物の供給など、様々な役割を果たし、住民の生活を守っています。

・一方で、中山間地域では、**急速な過疎化と少子高齢化、有害鳥獣被害、コミュニティ存続の危機**など、特有の課題を抱えています。

・そこで長野市では、やまざと振興計画を策定し、**中山間地域の活性化に重点的に取り組んでいます。**この取り組みの一環として、協力隊制度を導入し、**中山間地域を中心に協力隊を配置**しています。

・現在は、**農業分野に限り**、協力隊の配置を**市内全域に拡大**しています。

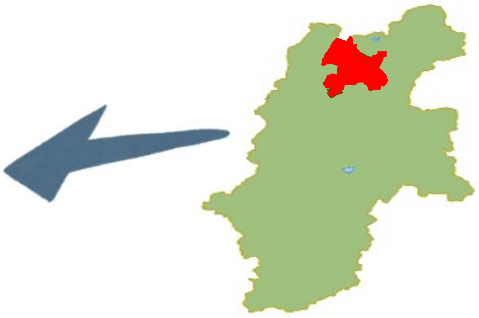
協力隊の配置状況



※グレーの部分が長野市の中山間地域です
R7.4.1現在

◆ 市域の約4分の3は中山間地域

◆ 人口約37万人のうち、
中山間地域の人口は約3万人



長野市の地域おこし協力隊員になると

・長野市では、**地区ごとに**地域おこし協力隊に取り組んでいただく業務（ミッション）を策定し、隊員を募集・採用しています。採用された隊員には、自身の経験や特技を生かしながら、地域の活性化に向けて業務（ミッション）に取り組んでいただきます。

雇用形態 ： 長野市会計年度任用職員
任　　期 ： 最長3年（1年ごとに更新）
勤 務 地 ： 担当する地区の支所を拠点に活動
給与月額 ： 平均200,000円（月により変動があります）
※加えて、勤務の状況に応じて年2回期末・勤勉手当の支給があります

・活動に必要な費用（家賃、活動車両のリース料、出張旅費、作業道具等の購入費、研修費用等）を予算の範囲内で市が負担します。

長野市の地域おこし協力隊は？

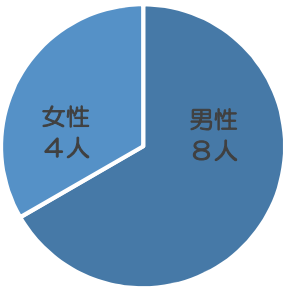
・長野市では、平成26年度から地域おこし協力隊を導入し、**これまでに70名を任用しました。**

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
導入地区数	5	11	12	12	12	9	10	9	10	9	9
隊員数（年度末時点）	11	22	25	21	23	12	14	14	15	12	13

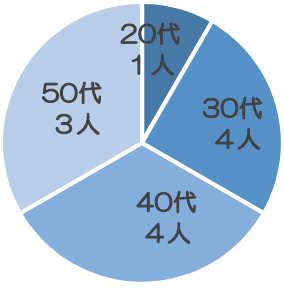
・現在、**市内8地区で12名の隊員が活動中**です（R7年4月1日現在）。
・隊員は、担当する地区で地域の特産物の生産・PR、空き家の利活用、有害鳥獣対策、ジビエ振興などに取り組んでいます。

隊員の内訳

男女比

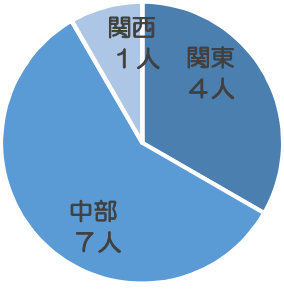


年齢

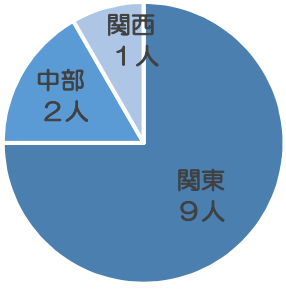


平均年齢　41.7歳

出身地



前住所地



隊員と活動内容(ミッション)紹介

01

・川中島白桃などの特産果樹ブランド拡大のための広報、宣伝、販路拡大
・特産果樹の栽培技術習得　ほか

R4年9月着任
川中島地区

鈴木　清子

（愛知県出身）

02

・りんごの栽培及び経営ノウハウの習得、販路開拓、ＰＲ活動
・りんご栽培等に関わる活動に参画
ほか

R5年1月着任
長沼地区

茂垣（もがき）　明徳（あきのり）

（埼玉県出身）

03

・高原野菜の栽培技術の習得と販路拡大
・地域の特産品となる農産物の研究と生産　ほか

R5年1月着任
戸隠地区

加藤　有希子

（静岡県出身）

04

・地域農業の担い手としての技術習得
・地域特産果樹の加工品開発
・地域特産果樹の情報発信と普及啓発
ほか

R5年9月着任
若穂(綿内)地区

北村（きたむら）　健（けん）

（京都府出身）

05

・やまのぶりんごの栽培技術習得
・あっぷるパイの販路拡大
・りんごを使った新商品の開発・販売
ほか

R5年9月着任
信更地区

梅野　大樹

（神奈川県出身）

06

・ワインブドウの栽培技術習得
・ワイナリー関連のＰＲ活動
・地域行事への参加
ほか

R6年1月着任
篠ノ井(信里)地区

那須野（なすの）　佑樹（ゆうき）

（新潟県出身）

07

・川中島白桃などの特産果樹ブランド拡大のための広報、宣伝、販路拡大
・特産果樹の栽培技術習得　ほか

R6年1月着任
川中島地区

小林　梨恵

（長野県出身）

08

・アンズの栽培技術の習得と生産、販売
・あんずまつり等のＰＲやアンズに関する宣伝活動等
・販路拡大に向けた戦略検討やブランド化の推進　ほか

R6年10月着任
松代地区

高橋（たかはし）　健太（けんた）

（静岡県出身）

09

・農業の担い手として、地域農業と農地の受け皿となる
・地域特産果樹を二次加工した商品開発
・特産果樹の情報発信と普及活動ほか

R6年10月着任
若穂地区

いわた　かずや
岩田　和也

（神奈川県出身）

10

・大豆の栽培技術の習得
・豆腐や味噌などの製造・販売
ほか

R6年10月着任
戸隠地区

こだか　こうじ
小髙　宏司

（神奈川県出身）

11

・飯綱高原の観光施設を活用した観光コンテンツの開発、イベントの企画運営
・農産物の６次化事業、体験型農園や民泊事業

R6年10月着任
芋井地区

おかじ　たかひろ
岡地　孝浩

（長野県出身）

12

・桃の栽培技術習得
・川中島白桃などの特産果樹ブランド拡大のための広報、宣伝、販路拡大
・遊休農地を活用した農作物栽培
ほか

R7年1月着任
川中島地区

のみやま　あゆみ
許山　歩

（埼玉県出身）

活動の様子

◆特産品の生産・PR

◆有害鳥獣対策、ジビエ振興（ジビエ肉を使ったメニュー開発・鹿革製品の製作）

◆空き家の情報発信、空き施設の利活用

◆支障木の伐採、薪の生産

◆観光振興（観光コンテンツの開発、イベントの企画・運営、観光施設のサポート）

◆各種イベントや首都圏等における特産品の販売・PR

隊員の1日

ある隊員の1日（林業Ver.）

7:00	起床・朝食
8:15	支所へ出勤
9:00	山林内で伐木・搬出作業
12:00	昼食
13:00	薪ステーションにて薪生産作業
16:00	支所にて事務作業事務
16:30	畑の草刈り・自宅周辺の草刈り
19:00	夕食
20:00	Ｗｅｂサイト作成・林業情報収集
24:00	就寝

本来のミッション以外にも農作業や地区内のいろいろな活動をしています。広めの土間と薪ストーブが置ける古民家を探していますが、見つかったら改修作業も加わって、今以上に時間が足りなくなりそうです･･･。（40代 男性）

仕事の重要ですが、家族との時間はもっと大切。メリハリのあるシフトを組んでいます。
いつかニワトリやヤギを飼い、庭に大きなトランポリンを置きたいなと考えています。（40代 男性）

ある隊員の1日（ジビエ振興Ver.）

6:00	起床（子どもに起こされる）
8:00	支所へ出勤　活動打合せ
9:00	食肉加工施設で作業
11:00	取引先へ納品
13:00	地区の果樹園視察（イベント物販にむけて提携農園開拓）
16:30	帰宅・子どものお迎え・家事全般
20:30	子どもの寝かしつけ
22:00	就寝

ある隊員の1日（果樹栽培Ver.）

7:00	起床・朝食
8:30	圃場集合・圃場にてぶどう収穫
9:30	作業場にてぶどう出荷準備
12:00	昼食
13:00	ぶどう出荷準備
16:00	ＪＡ流通センターへ運搬・出荷
16:30	帰宅
17:00	温泉
19:00	夕食・自由時間
23:00	就寝

1日圃場での作業が中心です。
肉体的には、それほどハードということはないと感じています。
1日の作業後の温泉がポイントです！生き返りますね！！
（40代 男性）

長野市の地域おこし協力隊になった理由

きっかけ
就農に向けた入り口を探していた。「農業法人への就職」や「農業大学校での研修」という選択肢もあったが、「地域に入り込むこと」が新規参入の第一歩と考え、協力隊制度を利用することにしました。

決めた理由
「協力隊」×「果樹栽培」で募集を探した結果、受入れ条件（給与・待遇・ミッション内容）が一番良かったから。また、母が長野県出身で心理的に行きやすかったから。

住んでみて
車の運転に慣れれば、日常の買い物も遊びも便利。東京へのアクセスも良い。ただ、私の住んでいる地区には、単身者向けの住宅がなく、家の管理が大変。特に冬の生活には、寒さ対策、雪かき、路面の凍結などデメリットもある。

20代 男性 単身

きっかけ
きっかけは東日本大震災。
自分たちで安全な食物を作りたい、子どもを自然豊かな場所で育てたいと田舎暮らしを考え、移住の地を求めて東北、関西、九州と、全国を旅しました。

決めた理由
全国を旅して、どこも良いところだけれどピンと来ない…そんな時に数年前に立ち寄った「松代」の文字を見つけ立ち寄り、「ここだね」と夫婦揃って感じました。
また、集落の間を縫うように広がる棚田と清らかな湧き水がある松代で米作りをしたいと思いました。

住んでみて
家族の時間がたっぷり取れること、子どもたちと四季折々の自然遊びができること、自分たちが育てたお米、野菜が食卓に並ぶこと、この選択をしてよかったと思うことはたくさんあります。

30代 女性 家族（子：2人）

きっかけ
都会で生まれ育って働くなかで、何故か地方への移住を夢見ていました。転職を決意して地方で就職活動をしていたところ地域おこし協力隊の制度を知り、移住成功への第一段階と考え応募しました。
また、募集要項にあった協力隊のミッションが自分の興味がある分野でした。

決めた理由
豊かな自然と美味しい食べ物。恵まれた住環境。そして都心からのアクセスの良さ。統計的に見ても長野の移住人気度は高い。移住してからその良さを実感しています。大自然に囲まれた田舎暮らしだけでなく市街地の生活もでき、多様な生活スタイルが実現可能な場所だと思います。

住んでみて
食生活が非常に豊かになりました。四季折々の旬の食材をもらったり、自分で作ったり、山で採ったり。健康的な食生活のおかげで体重が減り健康になりました。
協力隊という形で地域に入ったことで多くの方と短時間で密接な関係を築くことができました。

40代 男性 家族（子：2人）

任期終了後は？

長野市では、これまでに37名の隊員が3年間の任期を満了し、そのうち**36名が、引き続き市内に定住しました**（任期終了時点）。

長野市地域おこし協力隊員の退任後の状況（一部）

地区	年代・性別	任期中のミッション	退任後の進路
中　条	40代男性	りんごの生産・販路開拓	就農（果樹）
小田切	30代男性	空き施設を活用した生ハム製造	起業（生ハム加工事業）
七二会	30代男性	ソルガムを利用した特産品開発	起業（ソルガム商品）
浅川	30代男性	ワイン用ブドウ畑の開墾及び栽培	就農（ワイン用ブドウ）
若穂	40代男性	ジビエ振興、有害鳥獣対策	起業（ゲストハウス）
若穂	40代男性	農林業支援	起業（林業の個人事業主）
戸隠	30代女性	戸隠竹細工の技術継承	起業（竹細工教室）
鬼無里	50代男性	地元直売所の活動支援	起業（移動クレープ販売）
若穂	20代男性	特産果樹の栽培、情報発信、普及活動	就農（りんご）

長野市地域おこし協力隊向けの起業・定住支援制度

◆長野市地域おこし協力隊起業支援補助金（地域活動支援課）
　〇交付要件
　　（1）市内で起業する事業
　　（2）中山間地域等の活性化に資すると認められる事業
　〇交付対象
　　起業に要する設備費、備品費等【補助率10/10以内、上限100万円】
　　※令和年6年10月現在、任期満了し定住した36名の内、29名が活用

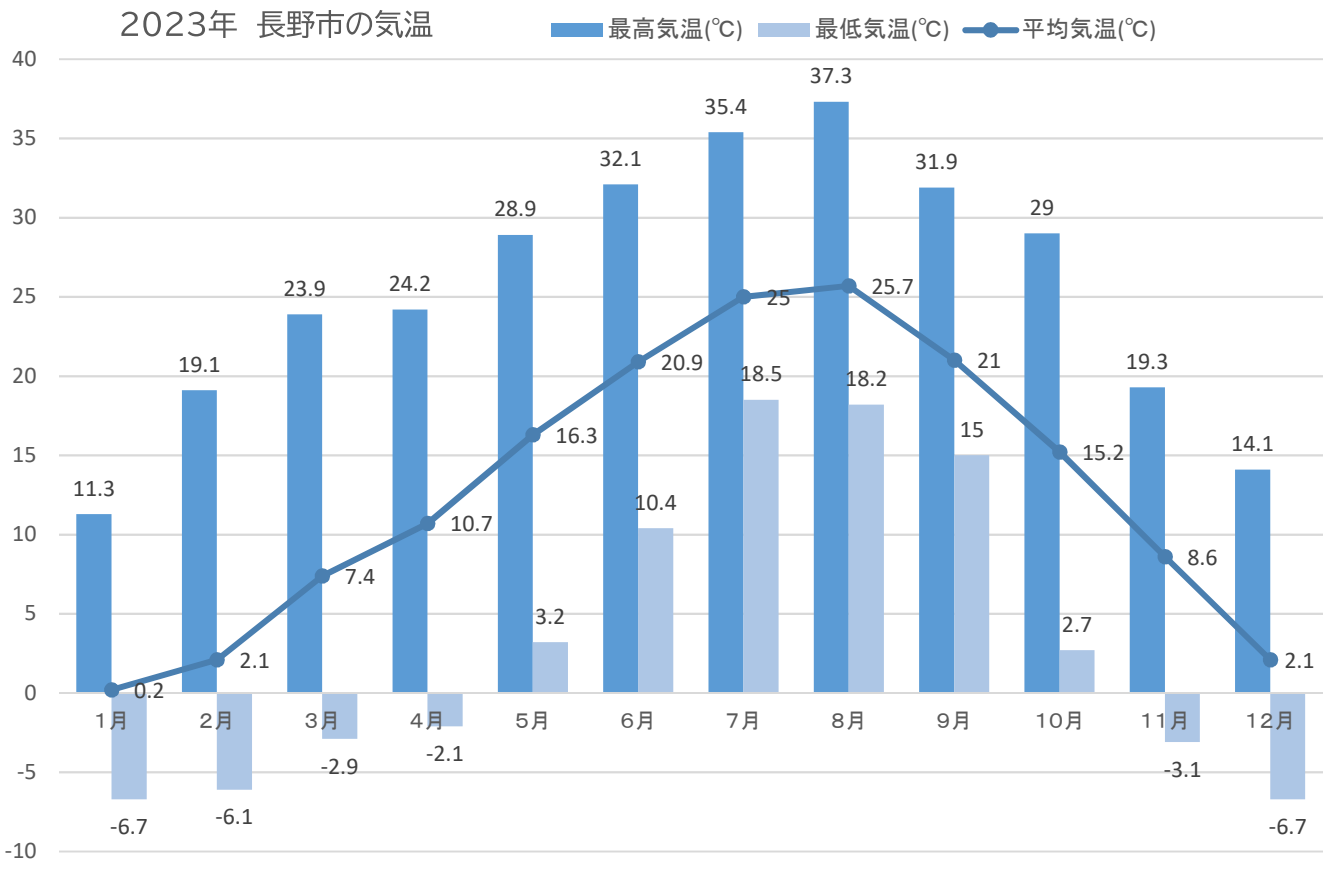
◆長野市移住者空き家改修等補助金（移住推進課）
　〇交付要件
　　空き家バンクに登録されている空き家の所有権を取得し、又は賃貸借契約を締結する移住者（移住後5年以内）
　〇交付対象
　　（1）空き家改修工事【補助率2/3以内、上限100万円（市街地は50万円）】
　　　※子育て世帯（15歳以下）には20万円/人、最大60万円まで加算あり
　　（2）家財道具等処分【補助率10/10以内、上限30万円（市街地は上限15万円）】

長野市ってどんなところ？

- 長野市は、人口37万人の**中核市**です。
- 長野県の北部に位置し、**東京から新幹線で90分**の場所にあります。
- 中心市街地から車を30分ほど走らせると、のどかな田園風景が広がります。
- **「まち」と「田舎」の良いところを両方楽しめる**のが、長野市の魅力です。

車で30分

- 長野市は、周りを山に囲まれた盆地であるため、**夏は暑い**です。
- しかし、**朝晩は非常に涼しく**、エアコンがなくても過ごせる気候です。
- また、**冬は非常に寒い**です。中山間地域は雪が積もり、場所によっては屋根の雪下ろしが必要になります。
- この**寒暖差**が、長野市の特長であり、**おいしい農産物が作れる要因**となっています。



長野市地域おこし協力隊ブログのご紹介

長野市で活動中の協力隊が、長野市の魅力をブログでご紹介しています。
隊員の活動の様子も知ることができますので、ぜひご覧ください！！

長野市役所ホームページ

長野市地域おこし協力隊ブログ

スマートフォンの方は、
QRコードからも
ご覧になれます。

長野市地域おこし協力隊ブログ

長野市地域おこし協力隊に関するお問合せ

長野市 地域・市民生活部 地域活動支援課

〒380-8512　長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地
TEL:(026)224-5033　FAX:(026)224-8596
MAIL:chiiki@city.nagano.lg.jp

FEEL NAGANO,
BE NATURAL
この街で、わたしらしく生きる。長野市